

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <茨城県 納豆 >
原料の大豆等の資材価格や燃料価格の高騰により業界の景況は大変厳しい。納豆の消費も暑さであまり良くない。コロナ禍の影響で観光客が少なく、土産品や業務用納豆の売上が大変厳しい。
2. <千葉県 しょう油食用アミノ酸製造 >
予想以上に長引くコロナ禍の影響から、しょう油の出荷量の回復は下期も不透明な状況にある。業務用市場の回復はすぐには見込めそうにない。
3. <福井県 醤油味噌 >
出荷量は味噌が前年同月比3.2%減、醤油が8.3%減。飲食業及び宿泊施設向けの業務用の低迷が続く。一部の組合員では業績不振により老朽設備の更新がままならず出荷量が減少している。
4. <和歌山県 その他の食料品 >
梅の作柄は、やや豊作、原材料在庫の逼迫感はなくなった。原料価格の普及品とA級品の価格は昨年より狭まっている。A級品の価格はやや下がったが、販売は通販系のみ売れている。
5. <徳島県 味噌 >
前年同月比、みその生産量は117.9%、出荷量は106.7%であった。前月比でみその生産量は90.3%、出荷量は91.2%であり、先月に続いて前年同月より増加しているが今年度の減少は続いている。
6. <佐賀県 茶 >
専門店、スーパーなどの売上が厳しく、各商社売上低下に悩まされている。その上ペットボトルの需要の為、全国的に下物が去年の2～3割上昇し、低価格の仕上がりできず、かなり厳しい状況。

繊維・同製品製造業

7. <福島県 縫製業 >
依然状況は良くないが、受注は多少増えつつある。最近の傾向として必要な資材が揃わないことが非常に多く、稼働と納期のバランスが取れず大変苦労している。
8. <栃木県 網レース繊維粗製品製造業 >
類似製品（トーションレース以外のレース）の動きが鈍く、当組合の製品に代替使用される動きが増えて来た。収益の悪化から生産管理のハードルを上げ、在庫を抱えない方針が強い模様。
9. <富山県 綿スフ織物業 >
新型コロナウイルス感染症拡大後、停滞が続いていたが、一時的ではあるものの受注が戻った。現地の在庫減が理由と思われ、まだ楽観視できない状況は続く。
10. <滋賀県 麻織物 >
第4波が落ち着いたが、引き続き時短営業を実施している企業も見られる。オリンピックも始まり、今後の感染拡大が読めない。特にテキスタイル関係は厳しい。
11. <岡山県 アパレル >
猛暑で電動ファン付きウェアの他、冷感素材のインナーウェアなどの販売が好調であるが、世界的に半導体の供給不安により前者の供給が追いつかず、業界全体で多大な機会損失が懸念されている。
12. <愛媛県 タオル >
梅雨明け以降、回復基調となった組合員や、ホテル向けの受注が増加した組合員も出てきたが、コロナ禍前の状況と比べれば、生産数量は75%程度であり、依然厳しい状況である。

木材・木製品製造業

13. <青森県 製材業 >
県内の製材所は依然として厳しい状況。輸入材が制限され国産材に転換したことから、スギ丸太不足のため深刻な状況が続いている。木質バイオマス用材を扱っている製材所は順調。
14. <埼玉県 木材木製品製造業 >
チップ用原木の入荷は、バイオマス用に流れている関係で低調である。そんな中で製紙会社からは針葉樹チップの増産要請があり、針葉樹の原木確保をどう確保していくかが課題となっている。
15. <静岡県 製材業、木製品製造業 >
海外産材の輸入減による「ウッドショック」の余波が続く、国産材需要は依然旺盛。年内はこの情勢のままというのが大方の観測。ただ材価が高止まりしている現状に需要が息切れする心配も聞かれる。

16. <和歌山県 建具製造 >
住宅及び店舗着工数は激減し、受注量も激減しているため、従業員の就業時間は時短化傾向にある。加えて、原材料は入手困難化を示し、材料仕入価格は月毎に値上げされている。
17. <宮崎県 製材業 >
例年原木入荷量が減少する梅雨時期だが、本年は高値相場が出材意欲をけん引してか不足感はない。但し、この時期特有の虫害等の懸念からか相場には一服感が見られる。
18. <鹿児島県 木材木製品製造業 >
外材の入荷量激減と価格高騰に伴う国産材への代替需要により、スギ、ヒノキの丸太は依然として引合いが多く価格の大幅上昇が続いていたが、スギは7月になり一服感が見られた。

紙・紙加工品製造業

19. <福井県 和紙工業 >
度重なる緊急事態宣言等の発出で、土産等の小間紙需要が更に停滞。建築も振るわず、襖紙などの需要が減少。加えて、他産地との競争により安値受注傾向にあり、前年比業況は悪化している。
20. <岐阜県 特殊紙 >
昨年からの回復はまだ感じられず、景況は悪化した。同業者も未だ雇用調整助成金を利用している状態と聞いている。飲食や観光があまり戻らず、コロナ禍以前に戻る気配は感じられない。
21. <三重県 紙器段ボール >
梅雨明けの猛暑で、飲料関係や冷夏食品の段ボールの動きが伸びている。電機関係の動きが正常に戻らず、相対的には生産量は前年対比で同じか、少し減少している。
22. <大阪府 古紙収集加工業 >
7月は緊急事態宣言、その後の蔓延防止策、さらに梅雨が重なり、地域での集団回収が行なわれなかったこともあり古紙の集荷は非常に悪く、新聞の発行部数減も景況の悪化に大きく影響している。
23. <高知県 機械すき和紙製造業 >
相変わらず、県内家庭紙業界は、厳しい状況が続いている。高騰したパルプを原料に生産しても、採算が合わない現状では、無理して稼働率を上げる必要はないと感じている。
24. <佐賀県 パルプ紙加工品製造業 >
昨年よりも売上は増加しているが、コロナ前と比較すると低調となっている。利益も多少上向いてきたが、重油、副資材の値上がりが気になるところである。

印刷

25. <宮城県 印刷同関連業印刷 >
前年同月比では売上高不変であるが、コロナ影響前の前々年度と比較すると、売上高は業界平均で2～3割程度減少している。影響は1年以上続いており、業界としても危機感がある。
26. <埼玉県 印刷業 >
昨年は新型コロナウイルス感染拡大により落ち込んでいたのが、今年はより良い状況となっている。全体として景況は持ち直しつつある。
27. <京都府 製本業印刷物加工業 >
商業印刷は激減状況で困っており、書籍においては二極化が進んでいる。新型コロナウイルスの影響はいつまで続くのか大変不安である。
28. <大阪府 シール印刷業 >
全体として売上は増加傾向であるが、業種によってばらつきがあり、工業系、薬品関係、食品関係等は好調、医療関係を扱うところは依然低調に推移している。
29. <島根県 印刷 >
7月に業界の景況アンケートを取った結果、前年同期比で売上高増加が31%、不変31%、減少38%となった。収益面では、好転23%、不変50%、悪化27%と昨年比不変が多かった。
30. <宮崎県 印刷同関連業 >
新型コロナウイルス感染症が終息せず、このままでは業績改善の方法が見つからない。設備も新たに投資するには躊躇しなければならず、国の支援策もハードルが高く、利用が困難である。

化学・ゴム

31. <神奈川県 石油製品 >
組合員各社の売上は概ね順調であり、大きく売上を伸ばしている組合員もあった。その中でも、自動車用化成品の輸出は特に好調であった。
32. <長野県 プラスチック製品製造業 >
7月は先月同様成形品の受注回復により、売上は前年同期を上回る結果となった。但し、一部成形材料の供給遅れにより納期に影響が出始めており、不安要素となっている。

33. < 岐 阜 県 プラスチック >
 売上は、自動車産業関連の需要が戻り、汎用化学品も戻りつつある。一方で、外食関連は需要が戻らない。電子材料関連は引き続き堅調を維持している。
34. < 大 阪 府 石鹼洗剤製造業 >
 前年4月の緊急事態宣言発令時に、石鹼洗剤の特需があったが、今年はその反動減で石鹼や漂白剤が落ち込んでいる。一方、洗顔ボディ用身体洗浄剤と合成洗剤の住宅家具用が順調である。
35. < 島 根 県 プラスチック製品製造 >
 全業種について、軒並み好調な受注となっており、特に自動車向け部品の流動は引き続き堅調となっている。巣籠り需要向け部品も同様の状況。しかし、材料の入手は先行きは不透明である。
36. < 広 島 県 プラスチック製品製造業 >
 樹脂価格の値上げや一部の樹脂不足感と、取り巻く環境は少し厳しさがある。マツダの2ライン停止による受注減少の影響により、自動車関連の受注不透明感が継続している。

窯業・土石製品製造業

37. < 山 形 県 コンクリート製品製造業 >
 官公庁発注物件は堅調に推移しているが、新型コロナ禍の影響により、民間需要が殆どなく全体的な製品需要は減少。特に道路側溝等の製品の需要が激減している。
38. < 栃 木 県 石灰製造業 >
 7月分については、前月同様の出荷傾向となった。鉄鋼向けは増加、肥料関係は昨年同様、建材関係は砕石、土質共に減少傾向となっている。通期では、前年並みとなった。
39. < 石 川 県 粘土かわら製造業 >
 前年比出荷量が増加し、収益状況も改善された。しかしながら、他業種でも見られる通り、昨年との比較では業況好転との見方は出来ない。
40. < 山 口 県 セメント同製品製造業 >
 出荷量は、前月比117%、前年同月比103%。セメント骨材等の資材調達については、現時点で特に問題は発生していない。生コン販売価格は安定している。
41. < 長 崎 県 生コンクリート >
 前年同月比、売上高は減少、収益状況は悪化、資金繰りは変化なし。7月の出荷は前年比で106.3%で前年を若干上回る実績となったが、前年累計比では88.2%と厳しい状態が続いている。
42. < 沖 縄 県 生コンクリート製造業 >
 7月の出荷実績は、対前年比で23.5%減となった。公共工事は対前年比21.2%減となり、防衛庁関連工事庁舎関連工事が減少、公共施設関連は微増。民間工事は、対前年比24.5%減となった。

鉄鋼・金属製造業

43. < 北 海 道 銑鉄鋳物 >
 昨年比では好調だが、足元の収益は低調である。銑鉄、スクラップ、シリコン、カーボン、銅、亜鉛、他鉄製品が昨年同期比150%~200%に高騰中。製品価格転嫁の成功例が増えてきている。
44. < 岩 手 県 金属製品製造業 >
 製品の加工費が下がっており、鋼材価格上昇の中にあって、厳しい収益環境となりつつある。入手難鋼材も増え、先行きの不透明感が増大している。
45. < 群 馬 県 電気めっき業 >
 自動車関連では半導体不足による減産の影響で受注が落ち込むも、半導体製造装置、工作機械部品、PC向けは好調に推移し、景況の好転を感じる。
46. < 山 梨 県 金属製品製造業 >
 輸出制限による生産量の抑制があった前年同月と比べると、7月は国内向けの生産が売上、収益共60%程回復した。しかし、半導体も自動車向けも勢いは衰え、一昨年の売上には至っていない。
47. < 鳥 取 県 鉄骨加工品製造業 >
 鋼材価格は高止まりし、年末までは更に上昇する気配。HTB（高力ボルト）の手配難だけでなく、柱に使われるコラム材は市中在庫が枯渇する事態となってきた。
48. < 大 分 県 鉄鋼業 >
 半導体製造装置部品を始め、各産業機械部品が好調なことと、入札物件が予想以上に獲得できたため、引き続き増加傾向にある。

一般機器製造業

49. < 福 島 県 プラント設備関連業 >
 プラント設備関連業について、売上高が先月比126%と増加になったが、前年同月比においては不変であり、前年累計比においても4%減と横這い状態である。

50. <富山県 金属工作機械製造業>
受注状況について、対前年同月比171%。工作機械部門を中心に各部門とも大幅に増加している。但し、半導体などの部材不足傾向は改善の見通しがなく、先行きは楽観視できない状況にある。
51. <石川県 機械金属器具製造>
最近では新型コロナウイルスの感染拡大化にあつて、その明暗が大きく分かれている。建設機械関連を中心に受注が大きく増加、コロナ以前の稼働率に回復している事業所もある。
52. <静岡県 生産用機械器具製造業>
半導体調達懸念から、発注先からは5～6ヶ月先までの在庫手当てを指示されている。また、品質低下を来さないよう「まやかし部品」を掴まないよう注意も受けている。
53. <奈良県 機械>
機械関連業界は、今秋以降引き合い、受注案件が伸展する見通しである。但し、品薄による材料費の高騰が重しとなり、価格転嫁出来ない企業は収益を圧迫し厳しい状況が続く。
54. <福岡県 一般機械器具製造業>
地区内の中小企業の工場稼働率は上昇傾向である。但し、春から夏にかけて、鉄や原油価格の値上りが続き、その分を販売価格に転嫁できていないため、収益悪化が続いている。

電気機器製造業

55. <群馬県 電気機械器具製造業>
半導体製造関連企業では、需要が多く年末まで生産計画が組まれているが、樹脂材や鋼鉄材、ナイロン材等の原材料が不足しており、今後の調達が課題となっている。
56. <山梨県 電気機械器具製造業>
半導体関連は受注が順調だが、医療機器関連や光学測定装置関連は生産計画が遅れ減少する等、顧客業種により明暗が分かれている。売上は前年同月比約10%増加、収益は約10%悪化した。
57. <長野県 電子機械器具製造業>
前年同月比では、製造業は売上増加傾向にあるが、半導体不足の影響を受ける自動車や家電等では、当面製品の完成状況を見ながら進めている。地域間格差が出てきている模様。
58. <兵庫県 電気機器製造業>
業績の回復の兆しが顕著であるが、半導体の供給不足による急激な減産の可能性が否めず不透明感がある。また、人材の確保が難しい状態が続いている。
59. <広島県 電気機械器具>
売上は前月比横這い、前年同月比50%増となった。2月以降の回復基調は不変で、工作機械等の順調ぶりを背景に増収が継続している。海外需要の回復も顕著で今後受注増加が見込まれる。
60. <福岡県 電気機械器具製造業>
コロナによる組合員の業況は、その影響を受けている組合員と若干の回復傾向にある組合員とが見受けられる。

輸送用機器製造業

61. <群馬県 自動車同附属品製造業>
半導体不足の影響で多くの自動車メーカーで生産調整が行われ、年内の回復は厳しいという声も聞かれる。地元の自動車メーカーにおいても生産計画が短期間で変更されることが目立つ。
62. <神奈川県 指定業者(船舶)>
鉄鋼メーカーは供給能力を上回る引き合いが寄せられ、海外でも需給がタイト化して日本向け輸出は減少、国内の需給は非常にひっ迫している。
63. <静岡県 輸送用機械器具製造業>
一部の組合員企業の中には、半導体不足の影響を受けているところもあるが、相対的には中国やアメリカの景気回復の影響により景況は好転している。
64. <愛知県 輸送機器>
新型コロナウイルスの影響で、全体的に製造業は鈍化している。原材料不足が続く中、コスト高により厳しい状況下にあるが、設備投資は増えつつある。自動車関連業種は横ばい状況下にある。
65. <三重県 鈴鹿>
新型コロナウイルス第1波の影響で大幅な減産を強いられていた昨年比、稼働率は上昇も、例年に比べると低迷している。メーカーから下期はかなりの増産になると伝えられているが、先が見通せない。
66. <兵庫県 輸送用機器製造業>
昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で販売が大きく落ち込んだが、今年度は主力取引先のモーターサイクルの販売が戻ってきており、比較的堅調に推移している。

その他の製造業

67. <秋田県 漆器 >
7月も売上の減少が続いている。昨年は4、5月の売上減少分を6、7月で埋め合わせできたが、今年は好転していない状況である。
68. <東京都 靴製造業 >
7月に発出された緊急事態宣言やアパレル不況の影響により、既に仕掛商品がなくなるメーカーがあるほど厳しい状況となっている。秋物の発注も先行きが見えていない。
69. <神奈川県 工業中心の複合業種 >
取引先の状況によりかなりの差があるが、6月末頃より徐々に受注が増加傾向となってきた。しかし、好転とまではいかず、受注増であっても材料の高騰の影響で収益面は厳しい状況にある。
70. <愛知県 工業用模型 >
一部で回復傾向もみられるが、なかなか持続するのは難しいようである。原材料価格も上がってきており、不安材料は増している。
71. <奈良県 靴 >
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、百貨店や小売店などの売上げが伸び悩み、そのためメーカーへの受注状況が芳しくなく、業況は非常に悪い。
72. <香川県 綿寝具 >
7月の業況は廃業した同業者からの仕事が少しあり、昨年とほぼ同じであった。自衛隊から布団約6,000枚の受注があり、資材が入ってきている。売上計上は8月か9月になる予定である。

《非製造業》

卸売業

73. <青森県 りんご卸売業 >
7月分りんごの販売数量は、県全体で11,629トン前年比171%、我が商系は8,172トンで前年比125%。前年より在庫量の多さから販売価格は苦戦。令和2年産りんごの販売は赤字となる見通し。
74. <千葉県 食肉卸売 >
豚価上昇により仕入価格が上昇中（気温上昇に伴う養豚の生育遅延によるもの）。この傾向は8月一杯続くと思われる。仕入価格上昇に伴い、販売価格も上昇した為、損益に特段影響は無い。
75. <神奈川県 リサイクル >
ダンボール古紙需要について、市中回収量は低下しており、問屋在庫も低水準が続いている。鉄スクラップ市況は7月下旬から軟調で、電炉メーカーでは夏季減産が続いていくことが見込まれている。
76. <新潟県 花卉卸売業 >
昨年同様、コロナウイルス拡大により売上が減少したが、中旬から下旬にかけて量販店向けのお盆用商材の納品が始まり、後半は入荷量売上が微増した。帰省時期を避けたお盆参りの影響。
77. <滋賀県 家電 >
昨年は、特別給付金の関係でエアコン中心に空調関連商品の販売が好調だったが、本年はその反動で、季節商品の販売は好調とまでは言えない状況である。
78. <熊本県 野菜卸売業 >
野菜果実ともに単価が前年比下落し、特に、野菜が大幅な値崩れとなった。例年、お盆の時期から値上がり傾向になるが、今年はコロナ禍での人流抑制の影響が見られる。

小売業

79. <山形県 農業用機械器具小売業 >
7月は新型コロナウイルスの影響も少なく普通に営業できた。農機販売店では、農業機械の売行きが良く、中古農機が品薄で割高感があるため、新品の需要が高まる等、景況は好転している。
80. <東京都 中古自動車小売業 >
半導体不足など自動車部品の不足による新車生産台数の低下の影響が大きく、長納期化が深刻になっている。その影響による中古車の在庫不足と価格の高騰の状況が続く。
81. <奈良県 配置薬 >
医薬品自体の使用は減っているが、健康食品等栄養補助免疫向上等の製品は増加傾向にある。業界全体での販売数量は伸び悩みの傾向で収益は悪化している。
82. <徳島県 畳小売業 >
新築現場の仕上がり少なく遅れも目立つ。リフォームも時間をかけたものが多く、預かり品が増えている。一般家庭と営業用の現場が相変わらず少ない。
83. <福岡県 花植木小売業 >
観葉植物や鉢植え植物は、巣ごもり効果でよく売れていて、セリでも品薄状態になっている。切り花は依然売上げが減少している。
84. <熊本県 燃料小売業 >
7月のプロパンの原油価格は620ドル/tで先月530ドル/tより価格が上がっている。また、猛暑酷暑が続いた影響により、販売量は先月より21.5%減、売上高も先月より10.7%減となった。

商店街

85. <岩手県 商店街 >
外食やカラオケなどの全国チェーンから組合脱退の申し出が複数あり、対応に苦慮している。
86. <東京都 商店街 >
オリンピックを開催するも緊急事態宣言が発出され、新規感染者数の増加が続いている。猛暑も重なり、来街者も減少傾向にあり、上半期に続いて下半期も先が見えない日々が続くと見ている。
87. <山梨県 商店街 >
ECサイトや通信販売などの非接触型販売の利用が高まり、組合員の売上や来店者数が減少している。現状が続けば商店街も個人店も経営継続は難しい。今後はかなり厳しい時代になる。
88. <三重県 商店街 >
初旬から中旬については感染状況の落ち着きもあって徐々に売上の方も戻りつつあったが、中旬以降の感染状況が増加していくことの影響もあって、減少傾向にある。

89. <香川県 商店街 >
7月22日からの4連休は夏休みも伴い県外からの旅行者も目立った。連休後はオリンピックと猛暑が重なり、飲食店も早めに閉める店が多く、売上は減るばかりで四苦八苦している。
90. <長崎県 商店街 >
前年同月比、売上高、収益状況及び資金繰りは変化なし。7月はオリンピックが始まり世の中の変化を期待していたが、依然コロナ禍は続き、今年も恒例の商店街夜市を中止せざる得なかった。

サービス業

91. <宮城県 廃棄物回収 >
昨年度と比較して資源物売却単価の上昇により販売価格が上昇しているが、コロナ禍による飲食店休業や廃業による廃棄物排出量減少が続いている。
92. <岐阜県 広告美術 >
新規案件も少なく6月の動きと変わらず低迷したままである。7月に入り関東圏の新型コロナウイルス感染症の拡大が地方にも影響し、イベントの中止や規模縮小での開催が続いている。
93. <愛知県 IT >
緊急事態宣言が解除され営業活動も面談による商談が多くなっている。受注状況は昨年度より若干回復傾向にあるも、コロナ禍前の一昨年状況までには回復していない。
94. <大阪府 地質調査業 >
建設業界は国土交通省が向こう3ヶ年にわたり、国土強靱化政策を推進するため、積極的な地盤調査発注が行われており、景況は好転している。
95. <山口県 旅館業 >
昨年7月のあまりにも悪い状況に比べると7割増加、一昨年7月と比べると、まだ5割程度しか回復していない。オリンピック期間の4連休には多少のお客があったが、平日は厳しい状況であった。
96. <大分県 自動車整備 >
車検実績は前年比約112.2%。2年前との比較は103.9%。3ヶ月連続で前年比を大幅に超える入庫となった。貨物車の入庫も引き続き多く、予約で一杯の状況で残業も例年以上となった。

建設業

97. <秋田県 住宅リフォーム >
ウッドショックにより、木材の価格が50%前後値上りしたが販売価格に転嫁できていない。今後の契約分については順次対応する予定である。それに伴い建設資材も10~15%値上りしている。
98. <茨城県 総合 >
前月と大きな変化はなく、県規模の大型物件の入札が始まった関係で組合上位クラスの組合員は受注機会が増えそうだが、中規模組合員は仕事が少なく競争が激化している。
99. <静岡県 識別工事業 >
売上高や操業度は昨年度並以上になった。但しその要因は鋼材価格の急速かつ大幅な上昇による発注急増のためで、収益性は鋼材価格の値上げに歯止めがかからず非常に悪化している。
100. <京都府 一般土木建築工事業 >
ウッドショックの影響はまだ大きく残っているものの、徐々に通常取引に向けて動いている。資材の中には高止まりしているものもあり、収益状況は厳しい。
101. <愛媛県 建設 >
公共工事量の地域間格差の問題は大きく、事業量の少ない地域は過当競争の状態に陥り、業界に求められる週休2日への取り組みや従業員の昇給が困難な状態である。
102. <福岡県 職別工事業 >
仕事の受注量にバラつきがあり、仕事量を十分に確保できていない組合員がある。鋼材及び副資材等の高騰により、受注単価（工場加工費）を圧迫している。

運輸業

103. <青森県 貨物軽自動車運送 >
7月の業況は昨年より1割ほど売上増となった。全体的に低迷していたが、少しずつ良くなってきている。一方で、コロナ禍での先行き不安感と高齢化が重なり廃業者も増えている。
104. <東京都 港湾運送業 >
東京港の輸出入動向は金額ベースで、輸出は5,417億円と前年同月比で44.2%増となり、輸入は10,108億円と前年同月比で6.9%増と好調であった。輸出は自動車部品や工作機械等が増加している。
105. <新潟県 一般乗用旅客自動車運送業 >
新型コロナウイルス感染禍の第5波の到来により、街中の人出や新幹線旅客等が減少している影響で、タクシー需要はまだ回復していない。経営的にも非常に厳しい状況が続いている。

106. < 岡山県 バス >
緊急事態宣言も明け、バスツアーに回復の兆しが見えたが、利用者の消費マインドの冷え込みが依然として残っており、需要回復までには時間と状況の改善が必要である。
107. < 徳島県 貨物運送業 >
新型コロナの影響に加え軽油単価の値上りにより厳しい経営を強いられている。この状況下で運賃への転嫁が容易ではなく、取扱業種によっては回復が見られているが全般的に低調である。
108. < 鹿児島県 運輸倉庫業 >
オリンピックの開幕に伴う4連休やコロナ自粛要請等で荷物が少なく運賃も下落している。台風の影響で離島からの青果物も少なかった。燃料価格は高値のままで収支を圧迫している。

その他の非製造業

109. < 宮城県 不動産 >
コロナ禍でオンライン授業やリモートワークが普及し、通勤通学による転居は減少傾向となっている。一方、支店都市の仙台市内では、新婚向けの賃貸マンションの引き合いが増えている。
110. < 栃木県 大谷石採石業 >
昨年同月と比較すると好転している状況であるが、その原因は不明である。
111. < 新潟県 砂利採取業 >
令和3年7月度の骨材生産量は前年同月比104.1%であるが、令和3年1月～7月の累計では前年比96.2%であり、未だ昨年の業況まで回復していない。
112. < 兵庫県 ディ스플레이業 >
悪い状況で推移しており、正にコロナ禍に翻弄されている。イベント及びディスプレイ関連企業は、従来の方法にこだわらず臨機応変に軌道修正しながら業績を達成することが重要と感じている。
113. < 岡山県 信用組合 >
新型コロナウイルス感染拡大が続いており、飲食店を中心にまだ資金繰りは厳しい状況にある。引き続き、融資による資金繰り支援とともに、月次支援金の手続きやその他補助金の支援を行う。
114. < 広島県 不動産業 >
前月比、前年同月比共、特に大きな変化はなく、依然としてコロナ禍の不動産鑑定業界への影響は少ない。不動産市場は、コロナ禍の様子見から市内中心部での取引は少ない様に思われる。